

出雲圏域 通級による指導

I-Room

アイ-ルーム

Iには、I（私）・eye（見守る目）・inclusiveのI・IzumoのIなどが含まれます。
『私の取説（トリセツ）』を一緒に作っていきましょう。

集団の中で
多様性を生かしていく
ための指導

Q1 通級による指導の内容は？

A1

- ・学習内容は個々のニーズに応じて「自立活動 個別の指導計画」を立て、実施します。
- ・学習補充（教科の指導）や学力不安、学習遅進への対策ではありません。特に必要があるときは、困難さの状態に応じて「各教科の内容を取り扱いながら行う」ことができます。

Q2 どうしたら利用できますか？

A2

- ・利用希望者について、特別支援教育コーディネーターを中心に在籍校の関係者で相談をしていただきます。センター校も一緒に参加していきます。
- ・県教委とも相談の上、最終的に在籍校の校内委員会で利用の決定をします。本人保護者の合意が大切です。

Q3 利用するにあたり、在籍校の教員は何をしたらいいですか？

A3

- ・在籍校で個別の教育的ニーズを把握して、個別の教育支援計画を作成します。適宜、センター校と情報交換を行います。

Q4 単位認定されますか？

A4

- ・令和4年度より「自立活動」の単位として認定されます。1単位あたり35時間を標準とした指導計画を作成して指導し、その目標が十分に達成できたと校長が判断した場合に単位の認定を行います。



インクルーシブ教育システム推進センター校
(島根県立出雲高等学校)



●切れ目ない支援

●地域との連携



Inclusive Education System

高等学校における特別支援教育の推進を目指して

インクルーシブ教育システム 推進センター校

高等学校における 特別支援教育の 考え方

特性や困難に
応じた特別な
授業の提供

特性や困難に応じた特別な
支援の提供

全ての生徒に共通する支援の提供

- ・通級による指導
- ・他の関係機関との連携

- ・合理的配慮
- ・他の関係機関との連携

- ・ユニバーサルデザイン
- ・基礎的環境整備

島根県立出雲高等学校

インクルーシブ教育システム 推進センター校の役割

Inclusive EducationSystem



高校からの
相談対応



特別支援教育
ネットワーク構築



通級による指導
(拠点校方式)



高校からの相談対応 在籍校でできる支援を一緒に考えます。

センター校へ相談依頼

▶▶▶ 各校の担任、保健室、教育相談等でキャッチされた悩みごとや
困り感を気軽にご相談ください。



情報収集・行動観察

▶▶▶ 実際に授業や活動を見せてもらったり、日頃の様子を聞いたり、
面談に同席したりします。



支援方法の協議

▶▶▶ センター校の担当が校内の支援会議等に入らせてもらい、
学校や家庭で行える支援を一緒に考えていきます。



在籍校での支援

+ 必要に応じて 関係機関との連携 通級による指導



特別支援教育ネットワーク構築 高校の横のつながりを強化します。

特別支援教育コーディネーター会の開催

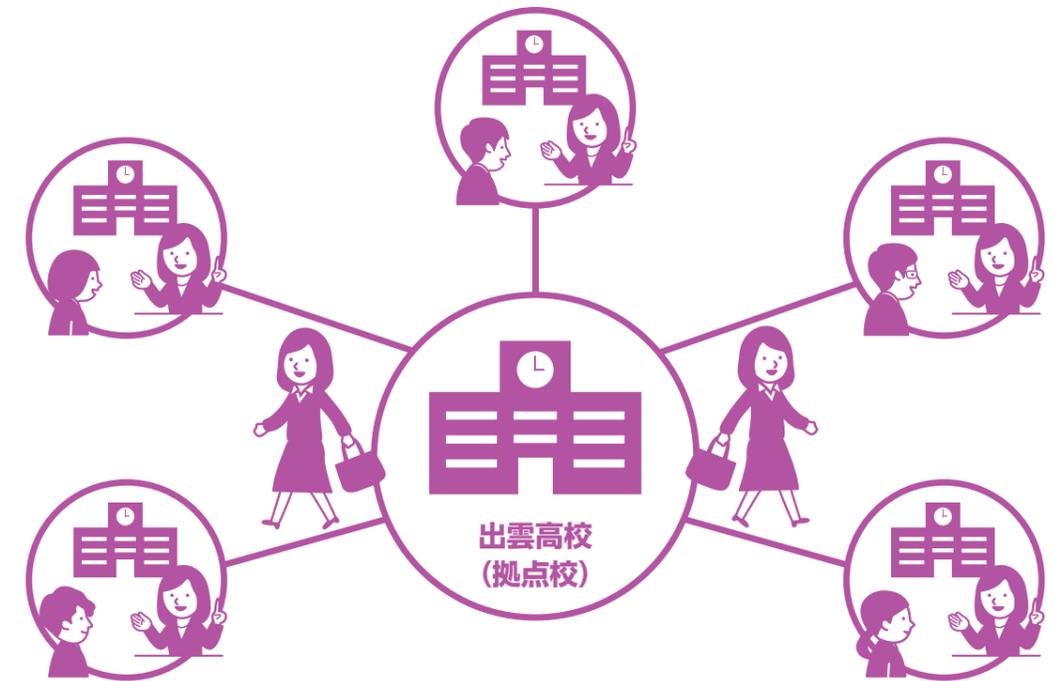
年間数回程度、出雲圏域各高校の特別支援教育コーディネーターが集まる場を設け、情報交換や研修会を行います。

各高校の校内体制・支援等の情報交換

校内の体制や支援について情報交換したり、個別の教育支援計画の作成に協力したりします。



通級による指導(拠点校方式) 在籍校で通級による指導を受けることができます。



対象

- ・発達障がい等の特性や困難に応じた特別な指導を行う必要がある生徒。
- ・本人および保護者の合意が得られた生徒。

指導内容

困難さのある生徒が自立と社会参加を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するための指導

- ・コミュニケーションに必要な言語の概念形成
- ・確実に継続的な学びや学習スキルの習得

言語活動

場面認識

- ・行動や事物を整理し、その原因を推し量る活動
- ・特定の事象が生じた理由を考える活動

- ・時間、提出物等の管理、計画、分担等に関する活動
- ・協働スキルに関する活動

ライフスキル

自己理解と職業理解

- ・自己理解に関する活動
- ・職業、他者、事物等の理解に関する活動
- ・適性理解に関する活動